

歩兵第百十聯隊略歴

年月日	概	要
昭一三、六、三三	永備大佐、官中に参りし軍旗を拜授優渥なるお話を賜う	
一三、七、八	瀋成地岡山出発	
一三、七、一四	中華民国河北省德県に前進	
一三、九、一八	冀西作戦参加のため保定に前進	
一三、九、二一	易県紫荆関を經て	
一三、一〇、三〇	保定着、同地附近の警備	
一四、七、七	保定出發警察費邊区作戦参加	
一四、八、一	瀋城金坡鎮易県を經て保定に帰着	
一四、八、一八	保定出發	
一四、八、一九	易県着同地附近の警備	
一四、一〇、九	保定西北方山地作戦参加阜平附近に前進	
一四、一三、六	作戦終了	
一四、一三、七	易県附近警備	
一五、一、七	保定に前進同地附近警備	
一五、一〇、一	紫荆附近の作戦	
一五、三、一	易県附近警備	

三 外 北 支 6

一六、五、七	新号作戦参加のため垣曲新郷附近に前進
一六、七、八	井陘附近の肅正討伐作戦参加
一六、八、一五	晋察冀邊区作戦参加
一六、一〇、一五	易県着同地附近警備
一六、三、二五	未占魁蕞滅作戦参加
一六、三、三〇	終了
一七、四、九	冀中作戦参加
一八、六、二二	移駐のため易県出發
一八、六、二六	順徳着同地附近警備
一九、三、五	京冀作戦参加のため順徳出發
一九、六、三〇	河南省孫旗屯着同地附近の警備
	豫鄂作戦参加のため洛陽に前進引継ぎ河南省洛寧県西方地区を突進し故県に進攻中
二〇、八、二五	十五時終戦の大命を受け
	爾後命に依り反転河南省洛陽に集結
自二〇、九、七	河南省洛陽西宮に位置駐留
至二一、三、八	
二一、三、一八	洛陽出發鄆州南封徐州漢口を経て

(248)

2047

年月日	概要
昭二、三、二一	上艇着 同三十日迄復員準備
二、三、三〇	才二大隊中各大尉以下六百二十七名 才七一兵站勤務の巨の残留
二、三、三二	(吳松)陸軍軍医中尉恩田威明才一七九兵站病院に転属才一中隊才二中隊才四中隊通信中隊
二、三、三一	上海出帆(吉富大尉以下四八八名)
二、三、三一	聯隊主力上海出帆
二、三、三一	前記吉富隊口博多上陸
二、三、三一	復員完結
二、三、三一	歩兵才百十聯隊長 中村武男

(247)

2048

四 内 北支

歩兵第百三十九聯隊略歴

陸軍中佐 永田 文雄

年月日	概	要
昭三、六、三	陸軍中佐永田文雄官中に参内軍旗拜受優渥なる勅語を賜ひ編成を完結す	
一三、七、九	兵庫真庭路出發	
一三、七、十	中華民国河北省北京市外清華苑に駐屯	七一〇 宇品港出港 七一四 太田上陸
自三、九、一	北都山西側戦に参加	
至三、十、三〇	河北省新城縣新城に駐屯	
一四、七、二	山東省壽陽縣武定に駐屯	一七〇 白河上陸 一七二 中野上陸
一四、九、五	河北省内邱縣内邱に駐屯	
一六、一、八	河北省井陘縣井陘に駐屯	
一七、四、五	河北省新樂縣東長寺に駐屯	一七五 中野上陸 一七六 中野上陸 一七八 中野上陸
一七、九、三	河北省定興縣城に駐屯	一七九 中野上陸 一八〇 中野上陸
一八、七、一	昭和一八年秋期冀西作戦に参加	
自一八、九、一	河北省新樂縣東長寺に駐屯	
至一八、三、一〇	河北省新樂縣東長寺に駐屯	一八二 中野上陸 一八三 中野上陸 一八四 中野上陸 一八五 中野上陸 一八六 中野上陸 一八七 中野上陸 一八八 中野上陸 一八九 中野上陸 一九〇 中野上陸 一九一 中野上陸 一九二 中野上陸 一九三 中野上陸 一九四 中野上陸 一九五 中野上陸 一九六 中野上陸 一九七 中野上陸 一九八 中野上陸 一九九 中野上陸 二〇〇 中野上陸
一九、三、三	河北省新樂縣東長寺に駐屯	

(250)

2049

年月日	概要
自頭一九四、二〇	京漢作戦に参加
至一九五、三〇	河南省臨汝県臨汝鎮に駐屯
一九六、三	豫鄂作戦に参加
自二〇、三、二一	豫鄂作戦卒頭に於て才一三軍司令官陸軍中將内山英太郎より部隊慰状授与せらる
至二〇、七、三〇	河南省臨汝県臨汝鎮に於て聯隊長陸軍大佐榎林太夫軍瀆を奉慰す
二〇、八、二七	河南省偃師県偃師に駐屯
二〇、九、四	河南省洛陽西宮に駐屯
二〇、一〇、二四	内地帰還の爲洛陽出發列車輸送により
二一、三、一五	上海到着
二一、三、二〇	聯隊長以下四四名残務上海東兵站を出發
二一、三、二六	上海港を出帆
二一、三、二八	聯隊本部及直轄隊才三大隊は博多港上陸
二一、三、三〇	才一大隊及才二大隊は仙崎上陸
二一、三、三〇	上海に残留しありたる聯隊長以下四四名上海港出帆
二一、四、一	佐世保港に上陸す
二一、五、一四	復員完結

四 外 北 支 6

(251)

2050

19.3 新編訓練和育型原 作戰準備  
 19.4.11 河北省新年米米長壽出現 奉天作戰參加  
 19.4.19~19.5.1 大清河之畔全談、霸王城、梅陣地の略取  
 19.5.2~5.4 湯恩伯軍主力との戦い、長水鎮近辺の作戦  
 19.5.25 洛陽攻略戦  
 19.5.28~6.30 湯軍との戦い、掃蕩戦  
 19.7.1~ 陣地構築、討伐、下化  
 掃子街の戦い、大物第3大隊を次下討伐  
 昭20 下化、移動 初年息教育  
 20.3.11 老河口作戦 陽管内共産軍作戦  
 19.2.2/ D主力出現 内郷攻略戦  
 19.7. 西峡攻略戦、霸王城、三井陘攻略  
 龍石を逆攻の戦い  
 留字の状況及び至毎文細之記備あり 50.5.1.5.3.54  
 大隊の編成

内地帰還時主力と分離復員した一部部隊の略歴は省略す

歩兵第百六十三聯隊略歴

年月日	概要
昭三、六、三	松江市に於て聯隊編成完結（ <small>陸軍中佐 新美三郎</small> ）
一三、七、四	支那派遣の爲松江出發
一三、七、六	神戸港を出發
一三、七、一	塘沽に上陸
一三、七、二	保定に到着駐地
一三、七、二〇	京漢及新易線附近才百十師團夏季討伐に參加
一三、九、一六	才百十師團北部山西作戦に參加
一三、九、二九	才百十師團京漢地方秋季討伐に參加
一三、一、二二	定県に駐屯
一三、一、一	才百十師團冬季討伐に參加
一四、三、一	才百十師團春季討伐の爲定県を出發安国を経て河北省安平附近に作戦行動
一四、六、一	昭和一四年度才二期討伐に參加
一四、一〇、一	昭和一四年度才三期才一次討伐に參加
一五、一、一	昭和一四年度才三期才二次討伐に參加
自一五、四、三〇	昭和一五年度才一期才一次討伐の爲冀中地区及河北省德西地方山地に作戦行動
至一五、六、三六	

自一五、八、三 至一五、八、二六	昭和一五年夏才一期才二次討伐の為京漢石太沿線地区に作戦行動
一五、二、二六	保定に駐屯
自一六、七、一七 至一六、八、二	河北省平山県滏陽鎮附近作戦の為七月一四日保定出發慶龍平山嶺を経て滏陽鎮に作戦行動
自一六、八、一三 至一六、八、一三	晋察冀邊区肅正作戦の為河北省安國を経て曲陽を過り軍城北向に作戦行動
一六、八、一六	保定に駐屯
一六、一、二七	清苑県大季各庄に作戦
自一七、四、二四 至一七、六、二〇	昭和一七年夏才一期肅正作戦の為滿成北方山地及冀中地区に作戦行動
自一八、一、一〇 至一八、二、二四	昭和一七年夏才二期肅正作戦の為河北省唐縣西北方山地に作戦行動
自一八、三、二六 至一八、三、一〇	引籠き河北省唐縣滿成縣北方山地に作戦行動
自一八、四、二〇 至一八、五、一〇	昭和一八年夏前期肅正作戦の為冀西地区に作戦行動
一八、七、五	河北省卒集鎮に駐屯

立十

(254)

2053



年月日	概要
昭六、九、一八	昭和一八年夏後期張作霖正作戦の爲冀西地区に作戦
至一八、二、二二	河北省石門に集結
一九、三、一三	京漢作戦の爲石門を出發河南省廣武縣陽武縣登封縣陽武縣洛寧各縣を通過
一九、四、八	洛陽攻陥
一九、五、二五	引籠ぎ残敵掃蕩及西師河南省歐定作戦の爲中等縣を經て嵩縣に前進敵の反攻企図を粉碎引籠ぎ反転偃師縣鞏縣を掃蕩張作霖
自一九、六、一	河南省洛陽に駐屯
至一九、七、一五	十九秋予西師正作戦の爲鞏縣白雲山地区に作戦行動
自一九、九、二〇	予鄂作戦の爲洛陽を出發臨汝鎮魯山を經て
至一九、一〇、三	南召を攻陥引籠ぎ南陽鎮平内郷を經て浙川に前進浙川丹江南岸地区に作戦爾後西
二〇、三、二二	峽口附近に隣進敵と対峙
二〇、八、二八	停戦に依り西峽口出發鎮平南陽許昌新鄭を經て
二〇、九、一四	河南省開封に集結
二一、三、二一	上海集結の爲開封出發
二一、三、二五	上海到着

五 外 北 支 6

(265)

2054

<p>二一三三 二一四三 二一四五</p>	<p>内地帰還の海上海出發 博多港上陸 博多に於て復員式挙行同日解散 復員完結</p>
-------------------------------	---

(256)

2055

第百十師団司令部増加配属砲兵略歴  
陸軍少佐 佐賀勝郎

年月日	概要
昭一八六一	軍令陸甲才三六号による野砲兵才三五聯隊復員下令と共に陸軍少佐佐賀勝郎以下
自一八六一 至一九三三	二〇九名才三五師団司令部増加配属砲兵要員に充用
自一九三一 至一九三三	北支河南省羅王城(主力)及中岸(一部)に在りて同地附近の警備
自一九三三 至一九三三	才三五師団の南方戦線転用に伴い陸軍少佐佐賀勝郎以下
自一九三三 至一九三三	属前任務疏行
自一九三三 至一九三三	京漢作戦参加
自一九三三 至一九三三	河南省洛陽泉滎門街附近の警備
自一九三三 至一九三三	才六二師団の南方戦線転用に伴い陸軍少佐佐賀勝郎以下
自一九三三 至一九三三	転属同時編成改正の上前任務疏行
自一九三三 至一九三三	河南省洛陽附近の警備
自一九三三 至一九三三	陸軍少佐佐賀勝郎
自一九三三 至一九三三	号により編成改正

(257)

2056

自二〇、三、一三	步兵百十聯隊に配属せられ予所支隊となり予鄂作戦に参加
至二〇、八、一三	停戦詔書發布
二〇、八、一四	復員下令
二〇、八、二五	河南省洛陽に集結完了
二〇、九、二	同地に在りて帰国の為待機
自二〇、九、三	
至二一、三、一八	帰国の為洛陽出発
二一、三、一九	
二一、三、二三	上海到着
二一、三、三〇	特別輸送船「桐」により上海出帆
二一、四、一	佐世保上陸
二一、四、二	復員式終了

(258)

2057

第百十師團工兵隊略歴

年月日	概要
昭三三、六 一三七	岡山に於て工兵才百十師隊編成完結 援支北支那方面軍の戦闘序列に入る
自一三七 至一三八	主力を北京の一部を保定、徳県に位置す
一三八下旬	下旬主力は北京より天津に移動す 其の他の配備改の如し一部を以て騎兵集團の指揮に入り歸徳方面の行動に参加す
自一四一、中旬 至一四一、下旬	主力は保定の一部を天津、北京及新安鎮に位置すこの間一部滄安方面に行動す
自一四一、下旬 至一六六、六	石門附近に集結駐留す
自一六六、六 至一七三、三	正定附近に駐す一部を以て山西方面或は才一次河南作戦に行動す
一八六	編制改正に依り才百十師團工兵隊と改称す
一九四	京漢作戦に参加爾後洛陽に駐す 作戦通過地
一九四、三三	滎陽 登封

(259)

2058

一九、五、三	宜陽
一九、五、一〇	洛寧
一九、五、一五	洛陽
二〇、三	予鄂作戦に參加終戦に至る 作戦通過地
二〇、三、三三	魯山
二〇、三、二七	南召
二〇、三、二九	内郷
二〇、四、二	西峡口
二〇、八	洛陽に集結す
二一、三、一六	内地帰還の急洛陽出發列車輸送により
二一、三、二〇	上栢口集結す
二一、三、三〇	内地帰還の急上海発出帆（極防艦一ニ六号）
二一、四、一	佐世保港上陸同日除隊召集解除

(260)

2059

第一百十師団通信隊略歴

陸軍大尉 南 芳 徳

年 月 日	概 要
昭一三、六、二七 一八、六、三〇	編成並に編成改正 編成完結
一三、七、一五	部隊の行勳
自一三、七 至一四、三	支那争戔参加の爲め河北省大沼上陸
自一四、四 至一五、二	河北省天津附近の警備
自一五、二 至一九、三	河北省石門附近の警備
自一九、四 至二〇、八	河南省洛陽附近の警備
自二三、六 至二五、七	部隊長 陸軍少佐 大神 保

(261)

2060

自一六一、一 至一七七、七	同	陸軍少佐 木場 貞秋
自一七、八 至一八、三	同	陸軍大尉 青 藤 武士
自一九、一 至二〇、五	同	陸軍大尉 中 谷 靖
自二〇、七 至二一、三	同	陸軍大尉 南 芳 徳
一三、六、三七 一三、七、九 一三、七、一五 一四、三	部隊行動の概要 岡山清心高等女学校に於て編成を完結 支那事変に参加の左め守島蒼出発 北支河北省太沽に上陸道に天津に前進同日より同地の警備並に附近の討伐 警備交代河北省保定に前進	
自一四、四 至一五、二	同地の警備並に同地附近の討伐 警備交代河北省石門に前進	
自一五、三 至一六、三	同地の警備並に附近の討伐	

(262)

2061



年月日	概 要
一九四	部隊は京漢作戦参加のため同地出發河南省広武具縣王城に前進
一九、四一九	同地より行動開始
一九、六二〇	河南省洛陽県洛陽に前進
自一九、六二〇	同地警備並に附近の討伐
至二〇、三一一	予部作戦参加のため一部を同地残置主力は河南省南陽を経て内部県西峡口に前進
二〇、三二四	同地に在りて作戦参加中転進を命ぜられ
二〇、八一一	同地出發洛陽に帰還途中
二〇、八一四	終戦
二〇、八一八	洛陽に帰還集結
自二〇、八一八	同地に在りて復員業務
至二一、三、一五	内地帰還輸送のため洛陽出發
二一、三、一六	上海に集結
二一、三、二〇	同地出帆
二一、三、三〇	博多上陸同日同地に於て復員完結

第一百十師団輜重隊略歴

年月日	概要
昭一三六、一六	勅員下令
一三六、三〇	姫路に於て勅員完結し輜重兵才百十聯隊編成さる
一三七、一二	守呂港出帆
一三七、一七	若垢上陸
一三七、一九	左記の通華北に分駐警備に任ず
	北京 聯隊本部
	德県 才一中隊(馳馬中隊)
	保定 才二中隊(同 右)
	天津 才三中隊(自動車中隊)
自一四三、四	聯隊は保定附近に集結同地附近の警備に任ず
至一四二、一〇	河北省樂城県に移駐同地附近の警備に任ず
自一四三、一三	本部 樂城県城内
至一五、五、二〇	才一中隊 故 始
	才二中隊 賣 旭
	才三中隊 石 門

年月日		概 要
自一五六、三 至一七三、一〇	<p>石門附近に駐屯</p> <p>本部 獲鹿県城内</p> <p>才一中隊 獲鹿県北敵城附近警備</p> <p>才二中隊 元氏県附近警備</p> <p>才三中隊 同 右</p> <p>才四中隊 保定県城内に駐屯し輸送並に警備に従事す(増加)</p>	
自一七、五一〇 至一七、二二七	<p>獲鹿県元氏県附近に駐屯</p> <p>本部 元氏県城内</p> <p>才一中隊 獲鹿県附近警備</p> <p>才二中隊 元氏県附近警備</p> <p>才三中隊 同 右</p> <p>才四中隊 保定県城内</p>	
自一七、二二七 至一八、六、二	<p>菅県京鹿県附近に駐屯</p> <p>本部 京鹿県附卒集鎮</p> <p>才一中隊 菅県附近警備</p> <p>才二中隊 京鹿県附近警備</p> <p>才三中隊 京鹿県附卒集鎮附近警備</p>	

(265)

2064

自一八六、二  
至一九、四七

自一九、四七  
至一九、五三  
自一九、五三  
至二一、三、一七  
自二一、三、一七  
至二二、八、一四  
自二二、八、一四  
至二二、八、二九  
自二二、八、二九  
至二二、八、八

才四中隊 保定縣城內

昭和十八年五月部隊編成改正により才一中隊一中隊の石部隊転属の為才二中隊を才一中隊に才三中隊を才二中隊に才四中隊を才三中隊に中隊名を改称す  
石門附近に駐屯

本部 獲鹿県城内

才一中隊 石氏県附近警備

才二中隊 輝極県正定県附近警備

才三中隊 獲鹿県附近警備

部隊編成改正により才四中隊を增加す

河南作戦参加

獲鹿 — 石門 — 新郷 — 修武 — 玄武 — 密泉 — 伊陽 — 洛陽

河南省洛陽県西宮に駐屯

予部作戦参加

洛陽 — 南陽 — 内郷 — 西峽口

停戦詔書発布

予部作戦参加中の処戦進を命せられ河南省鄭州に集結完了

洛陽に集結完了爾後復員業務

(62D)

年 月 日	昭三、三、一七 二、三、三六 二、四、二
概	内地帰還の為各陽出发 上海出帆 博多上陸同日同地に於て復員完了
要	

(217)

2066

第百十師団野戦病院略歴

年月日	概
昭一五八	<p>才百十師団第一、才四野戦病院及師団衛生隊を併合し河北省石門に於て編成完結す</p>
一六、二	<p>本部荊台県順徳に位置し三ヶ療養所及師団給水隊要員を差出す 当時の各療養所は才一、才四の各野戦病院の業務を継承し装備は四ヶ野戦病院の物を保有す</p>
一七、七	<p>療養所の位置は邯鄲、南宮、定県なり</p>
一八、六	<p>師団衛生隊の臨時編成替に依り給水隊要員を裁じ新に易県に療養所を新設す</p>
一九、三	<p>師団配備変更により野戦病院本部の位置を定県に異動し順徳、邯鄲、易県に患者療養所を配置す</p>
二〇、三	<p>師団編成改正に依る配備変更に伴い易県患者療養所を閉鎖し新に衡水に患者療養所を設置す</p>
二〇、三	<p>京漢作戦参加の爲滿州、内地及現地より臨時増加要員を補充せらる。作戦中は野戦病院は二ヶ半部に分ち参加せり</p>
二〇、三	<p>終了后河南省洛陽に才一半部を初め龍門街に後响崗崑に才二半部を位置し野戦病院を開設し夫々各半部より患者療養所を鉄門(新安県)嵩県、登封に配置す</p>
二〇、三	<p>一部は原駐地に残し主力は予鄂作戦に参加す</p>
二〇、三	<p>作戦参加部隊は一部洛寧に患者療養所を主力は内郷泉西峽口に位置し各半部毎に</p>

(268)

2067

年月日	
概 要	<p>野戦病院を開設        八月上旬転進現駐地に帰還待戦と共に才二半部並に各療養所は悉べて各隊に集結す        参加せる主要作戦は左記の如し</p> <p>才一期普察莫辺区作戦</p> <p>中原会戦（担架中隊感状受領）</p> <p>新号作戦</p> <p>才二期察莫辺区作戦</p> <p>香港陸軍病院要員として臨時野戦病院を編成承遺す</p> <p>莫中作戦</p>
	自一五、一〇 至一五、一一
	自一六、三 至一六、七
	自一六、五 至一六、七
	自一六、六 至一六、六
	自一六、七 至一六、七
	自一六、九 至一六、九
	自一七、二 至一七、八
	自一七、四 至一七、六

(269)

2068

九 内 北支 6

自一八一	至一八四	自一八九	至一八一	自一九三	至一九五	自二〇三	至二〇八	自二一三	至二一七	自二二一	至二二五	自二二九	至二三三	自二四一	至二四五
春期冀西作戦	秋期冀西作戦	京漢作戦	予鄂作戦	上海乘船地集結の為洛陽出發	上海集結乘継船準備	上海出帆	内地(仙崎)上陸								

(270)

2069



第百十師団病馬廠略歴

年月日	概要
昭一四、一、二八	編成改正により輜重兵中百十聯隊より改編す
自一四、一、二八	河北省保定に駐屯す
至一六、六、一五	河北省石門に駐屯す
自一六、六、一五	河南省采陽に馳屯 京漢作戦に参加
至一九、四、二二	河南省密県に駐屯 全 右
一九、四、二五	河南省登封に駐屯 全 右
自一九、六、一	河南省洛陽に駐屯 約台洛陽に留守隊を残置す
至二〇、三、一七	予鄂作戦に参加 魯山に駐屯
二〇、三、二二	南呂に駐屯
二〇、三、二六	内郷県内郷に駐屯
自二〇、四、一	内郷県馬刃に駐屯
至二〇、八、三	内郷県内郷に駐屯
二〇、八、一四	

昭二、四、九	昭二、三、二一	至三、三、一七	自二〇、一〇、一四	至二〇、一〇、九	自二〇、八、三〇	二〇、八、二七	二〇、八、二〇	二〇、八、二三	二〇、八、二七
復員完結	上海に集結		洛陽に集結		柳州に集結駐留		集結の待行軍	葉県に駐留	南陽に駐屯 終戦

(272)

2071

第百十五師団司令部略歴

陸軍中將 杉 浦 英 吉

年 月 日	概 要
昭 和 一 九 八 一	編成完結の状況 昭和一九四一年陸軍令陸甲オ七九号に依り臨時編成下令
一 九 八 一	中百十五師団司令部編成着手
一 九 八 一	編成完結
自 一 九 八 一	編成完結場 中華民國河南省鄭城具漯河砦
至 二 〇 二 八	行動被襲及復の日時
自 二 〇 三 一	豫南地区討伐並に警備
至 二 〇 七 三	手廻作戰参加
二 〇 八 一	停戦詔書発布
	陸軍少尉 海岸 總 松
	陸軍曹長 秋 葉 香 雄

(273)

2072

歩兵第八十五旅団司令部略歴

陸軍大佐 吉松 憲三

年月日	概	要
昭一九、八、一五	編成完結 編成場所 中華民國河南省確山具確山 旅団長	
自一九、八、一五 至二〇、八、一三	初代 陸軍少将 三 宮 満 治	
自二〇、八、一三 至二一、五	才二代 陸軍大佐 吉松 憲三 警備作戦關係	
自一九、八、一五 至二〇、三、二八	河南省確山具確山附近に於て同地警備	
自二〇、三、一 至二〇、七、二一	予鄂作戦に参加（確山―午帰―鄧県―老河口―淅川―西峽口）	
二〇、九、一〇 二一、四、一二 二一、四、二三	復員準備のため河南省鄭城県鄭城附近に集結 内地帰還の爲同地出發 上海越出概	

年月日	昭三、四三〇 二、四三〇 二、五、六
概	内地仙崎港上陸 旅団司令部の編成を解く 復員完結 総員 一四五名
要	

(275)

2074

独立歩兵第二十六大隊 (北才二九七二部隊) 略歴

陸軍大尉 高嶋 義 明

年月日	概	要
昭一、九、七、一〇	軍令陸軍才七九号に依り編成改正下令独立混成才七旅団独立歩兵才二十六大隊の名称を才百十五師団独立歩兵才二十六大隊に改正	
一九、八、一五	編成地 中華民国河南省遂平 吳遂平 大隊長 陸軍大尉 高嶋 義 明	
一九、三、一	行跡の概要 大隊長 陸軍中佐 林 四 郎 駐任 大隊長 陸軍大尉 高嶋 義 明	
二〇、三、一、九	作戦参加のため警備地区を瓦田兵団に委譲	
二〇、四、八	湖北省光化県老河口攻略	
二〇、四、三、五	内郷県西峡口	
二〇、八、一、四	停戦詔書発布	
二〇、八、三、二	内郷県西峡口移駐	
二〇、九、一、〇	河南省即城県凍河砦に駐屯	
二〇、八、三、五	復員下令	

(276)

2075

年月日		概		要	
昭二、四一〇	河南省鄭城隍隸河沿を出發復員輸送を開始す	階級	在籍人員	爭故人員	復員人員
二、四一五	上海還	將校	二九	四	二五
二、四二一	上海出帆	准士官 下士官	一六五	一六	一四九
二、四二九	舞鶴以上陸同日復員完結	兵	七二三	一〇六	六一七
	編成完結時兵力区分	合計	八八七	一二六	七六一
		小計	一五八二	三九〇	
		合計	一三八八	三六五	
		復員時に於ける兵力区分	一六八	二二	
		階級	三六	三	
		將校			
		准士官 下士官			
		兵			
		合計			

(297)

2076

終戦後の状況

一般状況

停戦詔書を奉戴し銘正なる軍紀の下極力彼我の紛争を避くは勿論  
東亞民族としての運命的共同体たるを根義とし行動せるを以て諸事  
満、円滑に終始す

軍紀

軍隊組織を厳に保持し一糸紊れず復員を完結す  
部隊長の軍紀維持の爲採りたる処置

(1) 統率の強化を要望

正しき情況判断

信賞必罰

堅確なる決心

(2) 敬礼の厳正

(3) 公民教育による日本人として正しき理念の把握

(4) 人生觀の確立

対外的には

(1) 対民衆軍紀の確立

(2) 対中国文化建設に貢献

單側の我に対する取扱及給予の状況

我の軍紀と積極的文化建設貢献に対し彼の希望得る處大にして苟も輕

(278)

2077



蔑視せられたることなし

その取扱は友好的にして諸軍の交渉は円滑に実施せられたり

給与は彼の努力にも不拘その実成績は必しも良好ならず 一時相当の

困難を来したり

給与困難なる時棧に於ける部隊長の採りたる処置

1 現地自活

技術・努力率仕による食糧の獲得

2 兵業量と採取量を合理化し給与量を平等にす(努力比による分配)

3 思想の統一

(299)

2078

独立歩兵第二十七大隊略歴

陸軍大尉 藤 水 格

年月日	概 要
昭一九、七、一〇	軍令陸甲中七九号に依り中百十五師団独立歩兵中二十七大隊編成下令
一九、八、一五	河南省鄭州城東渠河峯に於て編成完結（陸軍大尉 野 鉄 夫）
一九、八、一八	河南省確山嶺駐馬店に移駐 引続き同地附近の警備
自一九、八、二二	河南省泌陽真沙河柘攻略戦参加
至一九、八、二九	引続き一部沙河店主刃駐馬店附近警備
一九、八、三〇	河南省泌陽真沙河攻略戦参加
自一九、一〇、三〇	河南省泌陽真沙河店主刃牛蹄附近警備
至一九、一一、八	引続き一部駐馬店沙河店主刃牛蹄附近警備
一九、一一、九	予鄂作戦参加
自一九、三、一	予鄂作戦参加
至一九、三、一四	予鄂作戦参加
自一九、三、二〇	牛蹄正面急襲突破戦参加
至一九、三、三三	牛蹄正面急襲突破戦参加
自一九、三、三三	牛蹄正面急襲突破戦参加
至一九、三、三三	牛蹄正面急襲突破戦参加
自一九、三、三三	牛蹄正面急襲突破戦参加
至一九、三、三三	牛蹄正面急襲突破戦参加
自一九、三、三三	牛蹄正面急襲突破戦参加
至一九、三、三三	牛蹄正面急襲突破戦参加
自一九、三、三三	牛蹄正面急襲突破戦参加
至一九、三、三三	牛蹄正面急襲突破戦参加
自一九、三、三三	牛蹄正面急襲突破戦参加
至一九、三、三三	牛蹄正面急襲突破戦参加
自一九、三、三三	牛蹄正面急襲突破戦参加
至一九、三、三三	牛蹄正面急襲突破戦参加

年月日	概要
自二〇、三、二八 至二〇、三、三〇	老河口進撃戦参加
自二〇、三、三一 至二〇、四、九	老河口攻略戦参加
自二〇、四、一〇 至二〇、五、九	老河口附近掃蕩戦並防架戦参加
自二〇、五、一〇 至二〇、六、六	引籠ぎ河南省光化県老河口附近の警備
二〇、五、三〇	大隊長陸軍少佐淺野鉄次十四級立警備隊に転属 陸軍大尉 藤本 格着任
自二〇、六、一二 至二〇、八、一四	河南省浙川県麻蕪岨老河口附近の警備
二〇、八、一四	停戦詔書発布
二〇、八、一五	復員下令
二〇、九、二	停戦協定締結
二〇、九、一一	河南省鄆城県宋岩に集結
二一、五、二二	上海港乗船

(281)

2080

十二内 北支

二、六、一 博多港上陸

内地帰還時主力と分離した一部部隊の略歴は省略す

(282)

2081

独立歩兵第二十八大隊略歴

陸軍少佐 桑原 金一

年月日	概	要
昭一四二、一一	河北省滄州具滄具に於て独立親成才七旅団独立歩兵分二十八大隊として編成完結	
一四二、一一	行勳の概要	
一七、五、一三	河北省極山具極山に駐屯	
一七、七、二九	河北省東光具東光に駐屯	
一七、七、二九	山東省惠民具武定に駐屯	
一七、二、二六	河北省寧津具寧津に駐屯	
一八、六、一三	山東省惠民具武定に駐屯	
一九、三、一〇	京冀作戦参加のため駐地出發	
一九、六、二三	河南省固家口に駐屯	
一九、七、二四	河南省確山具確山に駐屯	
二〇、四、八	湖北省光化具老河口に駐屯	
二〇、七、四	河南省浙川具浙川に駐屯	
二〇、八、三二	終戦に伴ひ浙川出發	
二〇、九、九	河南省鄆城具鄆城河沿に集結	
二一、四、一三	内地帰還のため鄆城出發	

十二外 北支 6

二、四一七	上海到着	
二、四三三	上海出帆	
二、四三九	佐世保上陸	
二、四五七	復員完結	
	兵力	
	総員（在籍者）	九一名
	入院患者	四三〇
	生死不明者	五二〇
	死 歿 者	八四〇
	処 刑 者	一
	戦犯容疑者として上海乗船時抑留の者	
	右の附添者 残留者	三
	現在員（四月二十九日上陸者）	八一二名

(284)

2083

独立歩兵第二十九大隊（北第二九七五部隊）略歴

陸軍大尉 佐々水 幸 天

年月日	
概	<p>部隊長官氏名</p> <p>初代 陸軍大佐 三橋 利三</p> <p>二代目 陸軍中佐 待本 茂</p> <p>三代目 陸軍大佐 小川 雪松</p> <p>四代目 陸軍中佐 風間 満季</p> <p>五代目 〃 若台 孝臣</p> <p>六代目 陸軍大尉 佐々水 幸天</p> <p>編成完結の状況</p> <p>編成完結</p> <p>編成地 河北省唐官屯</p> <p>部隊行動の概要</p> <p>石徳打涌の爲河北省景県故城を攻略同地附近の警備</p> <p>冀強攻略同地附近の警備並に石徳線警備</p>
要	

自一七、六、二八 至一八、五、二五	配備変更の為山東省臨城に進出同地附近の警備
自一八、五、二六 至一九、五、四	配備変更の為山東省博山に進出同地附近の警備
自一九、五、五 至一九、六、三〇	京漢作戦参加
自一九、七、一 至二〇、二、八	河南省明港附近の警備並に京漢線警備
一九、八、一五	歩百十五師団編成完結
自二〇、三、一 至二〇、八、一六	同日歩百十五師団歩兵中八十五旅団独立歩兵中二十九大隊に改正
自二〇、九、一八 至二一、四、二	予鄂作戦参加
二一、四、一三	河南省郟城、禹高庄に集結復員準備
二一、四、二五	帰還の為郟城出發
二一、四、三〇	上海港出帆
二一、五、一三	歸郷上陸
	復員式挙行

(286)

2085



十三外七夜

年月日	
概要	<p>兵力        編成当時        復員人員 八九一名        編成以不の死歿者三七七名        生死不明者 三六名</p>
要	

(287)

2086

步兵第八十六旅団  
北第一五六一三部隊略歴

年月日	概	要
昭一九、八一五	編成完結	
自一九、九一	河南省無陽駐屯	
至二〇、三、一九		
自一九、一一、四	京漢線南段地区掃蕩作戦参加	
至二〇、三、二〇		
自二〇、三、二〇	宮崎附近丹江渡河作戦	
至四、一		
自四、一	李宝橋附近警備	
至六、三、九		
自七、三	河南省浙川県老名台附近警備	
至七、三		
自八、四	河南省浙川附近警備	
至八、五		
自八、三	浙川出発	
至九、八	河南省郟城県到着	
	中国才五戦区管理下にありて諸業務に取次	

(288)

2087

年月日	概	要
自昭一九、八一五 至昭二〇、三、九	陸軍少将 山田三郎	
自昭二〇、三、九 至昭二二、四、三〇	陸軍少将 楳口君登	
昭一九、八一〇 八一五	軍令陸甲才仁十九号により編成、下令 河南省區域に於て編成完結す	
自一九、九、一 至二〇、三、一九	八、駐地 北支河南省舞陽	
自一九、二、三〇 至二〇、三、三〇	二、作戦 京漢線南段地区掃蕩作戦	
至二〇、八、一五	豫襲作戦	
自一九、九、一 至二〇、三、一九	三、警備 北支河南省舞陽	
自二〇、四、一 至二〇、六、二九	北支河南省李官橋	
自二〇、七、三 至二二、七、三〇	北支河南省浙川泉老石台	

(289)

2088

自二〇、八四 至三〇、八一五	北支河南省浙川
八一四	終戦後の状況
八一三	停戦詔書発布後
九、八	河南省鄭城西坡李に集結
一〇、三六	中野才五戦区の管轄下に入り爾来勞役に服しつつ復員準備
八、三五	復員下令
三、四一四	帰国ノ為河南省鄭城出發
四、一九	上海到着
四、二五	上海出帆
四、三〇	慶忌歸上陸
五、四	二口市に於て復員完結

(290)

第百十五師團歩兵第八十六旅団司令部略歴

年月日	概要
昭和一九、八、一五	編成完結
自一九、九、一	河南省輝陽駐屯 此間
至二〇、三、一九	京漢線南段地区掃蕩作戦参加
自一九、二、一四	より豫漢作戦参加
至一九、二、三〇	より四月一日迄李官橋附近警備
二〇、三、三〇	より
二〇、三、三〇	より
七、三	まで河南省浙川県老名台附近警備
七、三〇	より八月十五日まで河南省浙川附近警備
八、四	浙川出發
八、三	河南省鄆城県到着
九、八	中冨才五職区ニ單墾下ニありテ諸業務ニ服ス 固有名 歩兵才八十六旅団司令部 北才一五六一三部隊

北才六

(291)

2090

年 月 日	概	要
皇昭一九、八、一五	陸軍少将 山田三郎	
皇昭二〇、三、九		
皇昭二〇、三、九	陸軍少将 樋口清登	
皇昭二一、四、三〇		
昭一九、八、一〇	軍令陸甲才二十九号により編制下令	
八一五	河南省鄭城に於て編成完結す	
	編成完結時の兵力	
	總員 一五八	
	将校 八	
	下士官 二六	
	兵 一二四	
皇昭一九、九、一	駐、地 北支河南省舞陽	
皇昭二〇、三、一九		
皇昭一九、九、三、四		
皇昭二〇、三、三〇	作戦 京漢線南段地区掃蕩作戦	
皇昭二〇、八、一五	豫領作戦	

(222)

2091

年月日	概	要
自昭一九、九、一	3. 警備	
至昭二〇、三、一九	北支河南省警備	
自昭二〇、四、一		
至昭二〇、六、九	北支河南省李官橋	
自昭二〇、七、三	北支河南省浙川県老君台	
至昭二〇、七、三〇		
自昭二〇、八、四	北支河南省浙川	
至昭二〇、八、一五		
昭二〇、八、一四	停戦詔書発布	
八、二二	旅団は河南省浙川出発	
九、八	河南省鄭城県西敗李に集結	
一〇、二八	中国第五戦区の管理下に入り爾来勞役に服しつつ復員準備	
八、二五	復員下令	
二、四、一四	版国の為河南省鄭城出發	
四、一九	上海到着	
四、二五	上海出帆	

(293)

2092

	<p>四三〇 五 四</p>
	<p>鹿兒島上陸 二日市に於之復員完結</p>

(294)

2093